

算数科学習指導案

授業日 令和7年 1月30日(木)

学習者 2年3組 28名

授業者 渡邊 亜門

1. 単元名 「図をつかって計算しよう」

2. 単元の目標

- ・加法と減法の相互関係について理解し、数量の関係に着目し、場面を図に表して構造をとらえる力を養う
- ・加法と減法の相互関係を数学的表現を用いて考えた過程を振り返り、その良さに気づき今後の生活や学習に活用しようとする態度を養う。

3. 単元の評価規準

知識及び技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
加法と減法の相互関係について理解し、加法と減法の相互関係を表した図を用いて、図や表に表し、問題を解決することができる。	数量の関係に着目し、場面を図にして構造をとらえることができる。	加法と減法の相互関係に関心を持ち、数学的に表現・処理したことを振り返り、数学的な処理のよさに気づき今後の生活や学習に活用しようとしている。

4. 単元計画と学習評価（全5時間）

時	学習内容	学習評価（知・思・主）〈方法〉
1	・全体と部分の数量の関係に着目して加法逆の減法（未知数が後に出てくる）の問題解決の仕方を考える。	・加法と減法の間隔を簡潔にとらえられるというテープ図のよさに気づき、場面を表そうとしている。（態）〈観察・ノート〉 ・加法と減法の相互関係を理解し、場面を表したテープ図を基に、加法逆の減法の問題を解決することができる。（知）〈観察・ノート〉
2	・全体と部分の数量の関係に着目して減法逆の加法（未知数が先に出てくる）の問題解決の仕方を考える。	・場面を表したテープ図を基に、減法逆の加法の問題を解決することができる。（知）〈観察・ノート〉
3 本時	・全体と部分の数量の関係に着目して加法逆の減法（未知数が先に出てくる）の問題解決の仕方を考える。	・場面を表したテープ図を基に、減法逆の加法の問題を解決することができる。（知）〈観察・ノート〉
4	・全体と部分の数量の関係に着目して減法逆の減法の問題解決の仕方を考える。	・数量の関係に着目し、場面を図に表して構造をとらえている。（思）〈観察・ノート〉 ・場面を表したテープ図を基に、減法逆の減法の問題を解決することができる。（知）〈観察・ノート〉
5	・学習内容の習熟・定着（たしかめよう） ・数学的な見方考え方の振り返り（つないでいこう 算数の目）	・基本的な問題を解決することができる。（知）〈観察・ノート〉 ・数学的な着眼点と考察の対象を明らかにしながら、単元の学習を整理している。（思）〈観察・ノート〉 ・単元の学習を振り返り、価値づけたり、今後の学習に生かそうとしたりしている。（態）〈観察・ノート〉

5. 本時でめざす子どもの姿

- ・全体と部分の数量の関係に着目して加法逆の減法（未知数が先に出てくる）の問題解決の仕方を考えることができる。（知）〈観察・ノート〉

仮説との関連

- ① 一人一人が目標を持ち、ゴールまでの道筋をつくったり、見通しをもたせたりするための工夫（仮説1）
 - ・個別のめあてを設定できるようにした。
 - ・問題を解く見通しを持ちやすくするために、単元を通して発問で使う言葉をそろえたり、問題の解き方を繰り返し確認したりして自信をもって問題を解けるようにした。
- ② 「できた！わかった！成長した！」を実感するための手立て（仮説2）
 - ・自由交流や全体交流を行うことで、協同的に単元のゴールへ近づくことができるようにした。

6.本時の学習展開（3/5）

	児童の学習活動	評価□ 留意点※
導入 7分	<p>○前時の活動を振り返る。</p> <p>○本時の問題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>㊦ 教室に何人かいます。後から8人来たので、みんなで23人になりました。はじめに何人いましたか。</p> </div> <p>○本時の課題を書く。</p> <div style="border: 2px solid red; padding: 5px;"> <p>㊧ どんない算になるか図をつかって考えよう。</p> </div> <p>○めあてを設定する。 ④自己決定</p>	<p>※「ぜんたい」、「ぶぶん」の確認をする。</p> <p>※教科書を閉じている。</p> <p>※スライドを用いて問題を確認する。</p> <p>※めあては別紙で用意し、デスクマットに挟んでおく。</p>
展開 26分	<p>○問題文に線を引く。(個人)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・わかっている数を○で囲む。 ・数がわからないものを□で囲む。 ・聞かれていることに波線を引く。 <p>○問題文に線を引いた箇所を確認する。(ペア)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・はじめにいた□人 ★ ①ゴールまでの道筋 ・後から来た8人 ・みんなで23人 <p>○テープ図と式を考える。</p> <div style="margin-left: 40px;"> <p>はじめにいた□人 後から来た8人</p> <p>みんなで23人</p> <p>・ $23 - 8 = 15$</p> </div> <p>○テープ図と式を説明し合い、交流をする。(自由交流)</p> <p>○テープ図と式を発表する。(全体交流) ⑦共有</p>	<p>※ワークシートの問題文に線を引く。</p> <p>※ぜんたい、ぶぶんという言葉に注目させる。</p> <p>※発表の際は黒板に書くか、拡大投影機を用いて発表する。</p>
終末 12分	<p>○学習のまとめをする。</p> <div style="border: 2px solid red; padding: 5px;"> <p>㊨ 図を使うとたし算になるかひき算になるかがわかる。</p> </div> <p>○練習問題に取り組む。 ★ ②成果の実感 ①ゴール</p> <p>○丸付けをする。</p> <p>○振り返りをする。</p>	<p>□場面を表したテープ図を基に、加法逆の減法の問題を解決することができる。(知)〈交流・発言・交流〉</p> <p>※プリントを用意する。</p>

図をつかって計算しよう

名前()

○1時間目のめあて

めあてに ○をする	めあて(◎よくできた ○できた △もうすこし)	ふりかえり ◎○△
	自分で「ぜんたい」・「ぶぶん」を見つけて、しきを考えることができる。	
	テープ図をつかって正しいしきをえらぶことができる。	

○2時間目のめあて

めあてに ○をする	めあて(◎よくできた ○できた △もうすこし)	ふりかえり ◎○△
	自分で「ぜんたい」・「ぶぶん」を見つけて、しきを考えることができる。	
	やり方がわかってもんだいをとくことができる。	

○3時間目のめあて

めあてに ○をする	めあて(◎よくできた ○できた △もうすこし)	ふりかえり ◎○△
	自分で「ぜんたい」・「ぶぶん」を見つけて、しきを考えることができる。	
	しきを考えてせつめいすることができる。	
	やり方がわかってもんだいをとくことができる。	

○4時間目のめあて

めあてに ○をする	めあて(◎よくできた ○できた △もうすこし)	ふりかえり ◎○△
	自分で「ぜんたい」・「ぶぶん」を見つけて、しきを考えることができる。	
	自分でテープ図を書くことができる。	
	しきを考えて、せつめいすることができる。	
	やり方がわかってもんだいをとくことができる。	

めあてに ○をする	めあて(◎よくできた ○できた △もうすこし)	ふりかえり ◎○△
	自分で「ぜんたい」・「ぶぶん」を見つけて、しきを考えることができる。	
	自分でテープ図を書くことができる。	
	しきを考えて、せつめいすることができる。	
	やり方がわかってもんだいをとくことができる。	

